

令和6年度

牛島小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 知識・技能習得の基盤となる学習規律・習慣の確立。
- 児童一人一人が自覚的に自己の学びを把握し振り返る、主体的な学びの実現。
- ICTを活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現。
- 児童が自尊感情を高め、意欲的に取り組む学習活動の実現。

学力向上検討委員会構成

- | | | |
|---------|----------------------|---------|
| 学力向上推進員 | 委員
校長
教頭
教諭 | 教務・研修主任 |
|---------|----------------------|---------|

校長

喜多 とよみ

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的基本的な読み・書き・計算力がついている。 ○素直で課題に取り組み、学習したことを活用しようとしている。 ●語彙が少ない。 ●進んで読書をする児童が少ない。 ●文章を書くときに既習漢字の活用が十分できていない。 ●内容を理解して解く応用・活用の力が弱い。	・読書に進んで取り組み、語彙力の向上を図る。 ・「話形」を進んで活用し、進んで発言できる。 ・体験と言語を結びつけ、実感を伴った理解ができる。 ・題意を正しく読み取ることができる。	・市立図書館・スクールサポーターと連携し、読み聞かせや図書館運営を通して、図書に興味を持たせて読書の質と量の向上を図る。 ・「家庭学習の手引き」「よりよく学ぶための7つのやくそく」を一人一人が実践できるように支援を徹底し、学習が進められるようにする。 ・牛島オリジナルの「聞き方」「話し方」を見直し、活用することで表現力の向上を図る。 ・タブレット、PCの検索や辞書を活用して、意味がわからない言葉を調べてイメージできるようにする。	・鴨島図書館と連携し、学年にあった本を選んでもらい学級文庫に置く。 ・教師自身の日々の支援・指導のあり方をふり返し、次の指導に生かせるように2週間に1回教師の振り返りの時間をとる。		

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員相互の報告、連絡、各種質問紙調査等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの活用によって、思考を深めることができている。 ○友達の意見を聞いて、自分の考えと比べてまとめることができる児童が増えている。 ○自分で考えたことを、自分なりの言葉で表現できている。 ●語彙が少ないため、自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。 ●1つの考えだけで満足し、多面的に考えることができない場面がよく見られる。 ●文章の要旨をまとめたり、筋道を立てて考えることが十分でない。	・発達段階に応じた方法でグループ学習をする機会を多くとることで、思考を深めることができる。 ・文章の要旨をまとめたり、筋道を立てて考えることができる。 ・意見の理由や根拠を書くことで、考えを深めることができる。 ・タブレットを活用して、個別の学びや協働の学びをしっかりと行い、思考を深めることができる。	・グループ学習において、伝える、聞く、比べる、関連付け、認める、分類する、まとめるの場面を設定する。 ・新聞を読む活動を取り入れ、読書の活動を充実させる。 ・意見を共有するために、タブレットの思考ツールやスマイルネクストノートを活用する。 ・意見の理由や根拠を書く活動を多く設定する。 ・多面的な意見が出るよう発問を工夫する。	・がんばりタイム等を活用し、新聞を使って視写や好きな写真・記事さがし、コラム等を読んで題名をつける等の方策を用いる。 ・タブレットを活用して、個別の課題を取り入れることや、思考・表現する場面において自分と友達の考えを人と比べ、思考を比べられるよう環境を整える。 ・振り返りはスマイルノートを活用し、次時へのつながりを意識させるためにどの教科でも行うように機会を設ける。 ・反転学習を取り入れ、タブレットを自宅へ持ち帰り、家庭での予習内容に基づいて課題を解決したり議論を行ったりして学習に取り組めるようにする。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業前の学習準備ができている子が8割程度に増えた。 ○見通しを持つことで学習に集中して取り組むことができている。 ●失敗を恐れているためか、発表する子が固定されている。 ●学習を振り返り、次の学習に生かすことができている児童が少ない。	・自分の考えを持ち、進んで発言できる。 ・他者の意見と自分の意見を進んで関係付けることができる。 ・学習内容のまとめにとどまらず、振り返りを書いたり、発表して共有することで、新しく気づき、自己を変容させることができる。 ・互いを認め合い、多様な発言を受け入れることができる。	・児童が集中して学習できるように「よりよく学ぶための7つのやくそく」を活用する。 ・授業の構成や発問・板書を工夫し、児童が主体的に意見を出し合えるようにする。 ・頑張ったことやできるようになったことを可視化し、達成感を味わうことができるようにする。 ・ポジティブな行動支援(PBS)に基づく授業づくりと生徒指導をする。	・児童が集中して学習できるように「よりよく学ぶための7つのやくそく」を活用方法を見直し、徹底を図る。 ・指名の仕方を配慮し、机間巡視で児童の意見を認めることで、児童が自分の意見を伝えやすくする。 ・頑張ったことやできるようになったことを可視化し、達成感を味わうことができるようにする。 ・自分で目標を設定し、振り返りをする中で、主体的に取り組むことができるようにする。		

令和6年度 学力向上ロードマップ

